（第三種郵便物認可）

勞働市場の現狀と勞働力の補給

戰時勞働對策懇談會

勞働市場の現狀

一　生産力擴充に基く勞働力の不足

今回の事變は戰場の地域から謂つても、兵器の消耗の點から謂つても日露戰爭とは比較にならぬ大規模なものである。歐洲大戰に際して獨佛等の交戰國は開戰後一年半にして、小銃、機關銃、彈丸等の製造能力を數十倍に引上げ、甚だしきは百倍を超へたるものもあつたほどである。

生産力の擴充が勞働力の需要を伴ふことは當然であり、この對策こそは戰時勞働對策の最も緊急を要する問題である。或化學工場の如きは事變前の六月に八百人であつたものが、九月には四千四百人となり、他の化學工場では六月に五百五十人であつたものが九月には二千五百人となつてゐる。同樣に陸海軍作業廠を始めとして一般軍需工業が如何に勞働力を需要してゐるかと云ふことは想像に難くないのである。

二　出征による勞働力の不足

出征に依る勞働力の不足は前項の生産力擴充に依る勞働力の不足に比較すれば、未だその程度は輕い樣であるが、兩者相關聯して工業勞働力の不足はかなり深刻を極めてゐる。殊に農村に於ても同樣の出征ある爲に募集が容易に行はれない。職工の出征に依つて最も打撃を蒙つたのは、從來在郷軍人中心に職工を採用してゐた工場であるが、この方面に於ては軍需勞務辭令部の應援に依つて、その補給には特別の便宜が拂はれてゐる樣である。

フランスに於ては大戰の開始で三百五十萬の豫後備兵が動員され、工場、會社及商店にかても從業員の二割二分が召集されたのである。

今回の事變は斯樣な大規模なものではないが、時局の進展如何に依つては、産業に從事してゐる勞働者が大量的に戰地に召集されることになるであらう。

三　熟練工に對する需要の增加

事變前から既に熟練工の拂底が叫ばれ、その應急策が論議され未だ解決の方法も見出されない內に、事變が勃發してしまつた。事變前に於ても約十五萬人の熟練工が不足してゐる等と謂はれてゐた位であるから、事變後に於ける熟練工に對する需要は一層急激となつたのは言ふまでもないことである。熟練工爭奪が各地方に於て問題を惹起してゐるところを見ても之が對策は早急を要するものであらう。熟練工の拂底は職工の出征に依つて益々拍車をかけられ、更に二交替三交替制の採用が叫ばれつゝある今日に於ては、單なる官製の見本的養成に依つては之を解決することはできない。

四　非軍需工業に於ける失業者の增加

軍需工業が多忙になる反面に於て非軍需工業の閑散は驚くべきものがある。閑散となる理由としては、或は外國貿易の關係から、或は贅澤品であるため、或は軍需品材料を使用してゐる爲等である が、職時勞働統制上この方面も閑却するわけにゆかない。就中最も打撃を蒙つたものは西陣織物業及堺市一宮市等の自轉車工業である。京都市の繁榮は西陣の盛衰に依つて定まると謂はれる位で、西陣織物業に從事してゐる者はその家族をも含めて約二十萬人に達してゐる。直接仕事をやつてゐる者は業主を含めて七萬人であるが、既に數千の失業者を出し、その他大部分は半失業の狀態である。而も西陣織の從業員は體格、勞力等の點から到底今日の軍需工業への轉換は困難と見られてゐる。自轉車工業は全國的に五割の操短をやつてゐるので、これまた數千の失業者を出してしまつた。

この他博多織、桐生、伊勢崎等の一般絹織工業が同樣に衰微しつゝあり、更に地方的に小規模ではあるが貝ボタンとか人形製造等の打撃も無視できないのである。

五　産業別による勞働力不足の不均衡

今日工業勞働力の補給は農村のみから行はれてゐるが、商業方面に就でも檢討の餘地はないであらうか。例へば古い統計ではあるが大正九年から昭和五年迄の十年間に於て、我國の全産業從業者の數は二千七百二十六萬人から二千九百六十一萬人と二百三十五萬人の增加となつてゐる。この中で商業人口の增加は五割餘の百二十四萬人の增加、次いで工業の七十萬公務自由業の四十八萬の增加、農業は十五萬人の減少となつてゐる。斯樣な實情から推し、冒つ將來産業組合の進出、販賣統制の強化を考ふるならば、商業に於ても或程度の過剩勞働力を發見することができるのである。

工業が都市のみに集中せず農村に進出したことは、今日の如き勞働力の不足の場合に非常な効果を擧げてゐる。農業勞働と工業勞働の指導調和と云ふ點に於ては、四國の新居濱や北九州に於ては相當の實績を示してゐる。

六　地方別に依る勞働力不足の不均衡

今日關東方面では左程深刻な勞働力の不足は感ぜられない樣であるが、關西及九州方面では一般に勞働力の不足が痛感されてゐる樣である。勞働統制が强化される場合には斯ある勞働力の過不足を圓滑に調整することが肝要である。

勞働力の補給對策

一　勞働力補給の緊急對策

既述の如く開戰と共に軍需工業に對する勞働力の需要は急激に增加するのであるが、今回の事變に於て政府が試みた手段は軍需勞務辭令部の創設であつた。

之は各府縣の職業課に參謀本部を置き、軍需工業に對する勞務の辭令をなすもので、職業紹介制度の完備しなかつた我國としては、非常な好成績を擧げてゐる。

尤も紹介の順序として民間軍需工業と云ふことになつてゐるので、實際問題としては軍需工業に對して滿足な要員充足をなすことは困難で、漸く作業廠關係に遺憾なきを期する程度である。

軍需勞務辭令部は職員の訓練、規模の擴大に依つて徐々に廣範圍の勞働需要を充足しつゝあるけれども、未だ勞働條件の不統一の民間工場全般に亘つてこの目的を達することは困難である。

從つて大規模な勞務需給統制機關の完備するまでは、職工の募集は或程度の自由主義を認めなければならぬであらう。要員の充足はできない上に募集地や募集方法のみを統制することになれば、勞働力の補給は結局不可能となつて非常時對策とならぬ憾がある。

殊に今回の事變で問題を起してゐるのは鑛山が軍需工業の分類に包含されてゐないために、鑛山勞働者の募集が不利となり、鑛山から工場に移動する者が多いが、これらの點も考慮して、規則の矛盾を解釋に依つて補ふ必要がある。炭坑は軍需品工場とは不可分の關係があるので當然軍需工業に加味する勞働力の補給は農村の過剩人口は絶對的の意味に於ける過剩ではなくて季節的の場合が多い。農業勞働力を都會に吸收されつゝあるとは困るが、農村に工業が進出するならば、餘暇を利用して工業に從事しうるのである。斯樣な意味に於て軍需品工業の一部が農村に進出し、農業勞働力と工業勞働力の調節を圖るならば、今日の勞働力不足の問題を多少緩和しうるのである。

（第三種郵便物認可）

二　熟練工の養成

勞働力の不足は言換れば熟練工の不足である。併しながら今日の如き熟練工に對する大量の需要は結局その供給が困難と見らるゝから已むを得ず素人工で諦めるより仕方がないのである。尤も一部の職場に於ては高級な熟練工の維持は不可缺であり、將來二交替三交替制度の採用を慮れば熟練工の養成は一刻も忽せにすることはできない。之に對しては各工場は自足自給の見地から、能力の範圍で熟練工養成をなすべきであり、政府も亦民間指導或は中小工業助成の目的を以て一部養成をなすことは必要である。

併しながら將來の傾向としては寧ろ熟練工の地位は重視されなくなるのではなからうか。即ち大量生産並び機械改良の結果高度な熟練は不必要となりうるし、又之を努力しなければならぬのである。斯かる時代に於ては職工自身も不況の際に於ける失業を慮つて、萬能工として熟練工を好まぬことになるであらう。

最近擡頭した理研の工場の如きは高等小學卒業の男女を五六ケ月教育することに依つて、從來自給二四餘とつてゐた熟練工よりも精巧な技術を修得してゐるそうであるが、これは從來の不完全な機械施設と習慣式な技術教育に依つたものと、優秀な機械施設と進歩した教育とに依つたものとの差に因るのである。

之を要するに熟練工の養成は到下の急務ではあるが、千遍一律の學校教育に依るものよりも、各工場の實情に即した養成が望ましく、理論と實際とが同時に修得される如き方法に依つてこの問題を解決しなければならぬのである。

三　職工爭奪防止

職工爭奪就中熟練工の引抜きは最近に於ける工場經營主の悩みの種であつた。事變後に於ては一部の軍需工業方面から申合せに依つて、職工の爭奪を戒めることになり、政府も熟練工の自給自足を勸告することになつて多少緩和した樣であるが、之を徹底的に實行することは困難であるが、之を徹底的に實行することは困難であるが、大工場としては如何に善意の募集であつても、中小工場から見れば大打撃である。平時に於ては勞働條件の異なる工場內に於て或程度勞働移動のあることは已むを得ないが、今日の如く凡ての工場が勞働力の不足で悩まされてゐる時に、多少の勞働條件の差を以て、他工場を攪亂することは反省しなければならぬ。之は一方に於ては事業主の反省に俟たねばならぬが他方に於ては、勞働者の愛國心に訴へ、多少の賃銀に依つて動搖せぬだけの精神的自覺に俟たなければならぬ。

事業主間の爭奪防止の申合せが道德的な意味から出發してゐる場合には、結構なことであるが、之は時として勞働條件の引下を來す場合があるので、戰時中に於ては或程度の勞働條件の標準化が先決問題である。これはいろ／＼の意味で戰時勞働對策の悲鳴となるものであるから、特に考慮すべき點である。

四　召集猶豫

軍需工業に於ける特殊の技術者は召集猶豫規定が、適用されるのであるが、今回の事變に際しては未だ訓練が不充分であつた爲か、各所に齟齬を來してゐる。英佛等に於ては歐洲大戰に際し戰場に送つた熟練工を工場に送還する爲に非常な混雜を來したのである。

如何なる限度に召集猶豫をなすべきかは軍需勤員として主要なる研究題目であり、目下陸海軍省に於て深重研究中であるから茲に詳論を避ける。

五　兵員の工場配屬

戰爭の目的を達する爲には、戰地に於て交戰する者も、産業にあつて軍需品を製造する者も、共にその任務に輕重の差はないのである。從つて戰爭の愈〻擴大する場合には召集された兵員の一部を工場に勤務せしめることは勞働力補給の一手段として考慮して置かなければならぬ。（軍需工業動員法第八條第九條參照）

六　職業の轉換

開戰と共に軍需工業の繁忙と非軍需工業の閑散を惹起するのであるが、この勞働需給を調節することは單に戰時勞働力を補給する爲のみならず、國內の社會問題、思想問題を解決する爲にも必要である。前述の西陣織物の如く直接軍需工場に轉換し得ない者も、特殊の方法を以て軍需品の下請をすることはできるわけである。現に彈丸のケース等少量の註文を受けてゐるそうであるが、之を全國的に調査して救濟且活用の手段を講じなければならぬ。

七　女工幼年工の使用

青年勞働の不足を女工及幼年工に依つて補ふことは事變前に於て也試驗濟のことであつたが、事變後既にこの傾向が現はれつゝある。製鐵工場に於ではかなり過激な部所に女工が從事して居り、一部の工場では女工が旋盤をやつてゐる。

職局の發展と共に女工幼年工の使用は已むを得ないことである が、婦人の本來の職能から見ても女工を工場に使用することは最後の手段となすべきであらう。殊に勞力體力ともに發育の過程にある幼年工に過重の負擔を課することは勞働力保持の上から考慮すべきである。假に女工及幼年工を使用する場合に於ても、保健、衛生、教育等の點には特別の注意を拂なければならぬ。

八　就業時間の延長

勞働力の不足は就業時間の延長に依つて或程度の効果を擧げうるけれども、長きに亘つて之を見れば就業時間の延長に依つてこの目的を達することは、一部限られた範圍に留まる。

九　植民地勞働の移入

大戰に於けるフランスの如きは多數の外國勞働を輸入したのであるが、それは複雜なる政治經濟上の問題と關聯するから、一時的需要の爲に植民地及外國から勞働力を移輸入することは考慮しなければならない。

十　農村工業化

農村の過剩人口は絶對的の意味に於ける過剩ではなくて季節的の場合が多い。農業勞働力を都會に吸收されつゝあるとは困るが、農村に工業が進出するならば、餘暇を利用して工業に從事しうるのである。斯樣な意味に於て軍需品工業の一部が農村に進出し、農業勞働力と工業勞働力の調節を圖るならば、今日の勞働力不足の問題を多少緩和しうるのである。

◎職業行政機構の確立

以上勞働補給に當つて考慮すべき數點を列擧したのであるが、結局に於ては有力なる職業紹介機關が完備するのでなければ、勞働力の需給調節は期して望み難いのである。殊に戰爭の遂行に當つては軍需勤員との關聯の下に勞働の國家統制は不可缺の事に屬する。爭奪の防止も、召集猶豫も、職業の轉換も凡て職業行政機構の完備せざる限り不可能な問題である。

たゞ現存の職業紹介機關はあまりにも社會事業的であつて、兼關時代の産業政策と合致しない。勞働手帳制、更に國民登錄制すら要求されつゝある今日に於ては、職業紹介機關の整備は、紹介所所職員の失業救濟機關とならざる樣、國防、經濟、産業の線に添つた大規模且强力な勞務需給の統制機關として進捗しなければならぬのである。

（河島）

※　※　※